

気象庁とXMLコンソーシアム「気象庁防災情報XML フォーマット」についての 第2回ご意見募集 に対して寄せられたご意見及びその回答

※1 意見募集の期間(平成21年1月30日(金)～平成21年3月6日(金))

※2 公開の基準等

- ・事務局に寄せられたご意見については、質問の主旨に応じてまとめた。
質問内容については原文を活かしつつ、事務局にて編集している。
- ・個人が特定できる情報(氏名、住所、電話番号、メールアドレス)については割愛した。

ご意見①

・投稿者: (東京都 会社員)

ご意見	対応
気象庁防災情報XMLフォーマット(ドラフト)の中に、個々の防災情報を一意に特定できる要素が見つけれませんでした。XMLフォーマットとするのであれば、全防災情報データを対象とした個々を一意に特定できる要素があれば、活用の度合いが高まるのではないのでしょうか。	ご指摘の点を踏まえ、考え方を「1.7 情報の取り扱い方法」に整理いたしました。

ご意見②

・投稿者: (東京都 会社員)

ご意見	対応
XMLデータの一部のみを抽出して配信してよいこととして欲しい。また、そのためのルールを簡素化して欲しい 【理由1】 サービスとして表現するにあたり、冗長なデータも多分に含まれており、全てのインスタンス全てを扱う場合、データ転送に係る遅延時間の増大や受信端末の情報処理能力への依存度が増大するリスクが高まるため 【理由2】 緊急地震速報や津波、火山情報については管理部およびヘッダ部の情報量だけで一般利用者への伝達については十分であることが予想できる XMLデータを更に配信事業者の規定するスキーマでフォーマット変換することを許可していただきたい 【理由1】 過去に配信された情報を参照して統計表示させたい場合など、DBとして管理しやすい形式で保管しておきたい 【理由2】 気象庁から提供される情報以外の情報と合わせて情報サービスとして提供する場合に、配信事業者および受信端末が扱いやすいフォーマットに統一して管理したい End to Endで防災XMLフォーマットが守られなくてはいけませんか？ 緊急地震速報以外の気象・火山等情報の扱いについて、緊急地震速報と同様に表現方法や、伝達方法について制限事項などがあれば早期に公開していただきたい 【理由1】 瞬時に判断しなくてはいけない命に関わるような情報の場合は、統一された表現の方がよいと考えられるから	情報の編集・加工は個別ユーザーニーズに併せるために必要な処理と考えています。気象庁が作成したデータについて、その意図が正しく伝わる範囲における加工については、特段問題ありません。なお、今年度に運用指針を示す予定です。

ご意見－③

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
配信された防災情報データの表示確認用として、xHTML形式に変更するスタイルシートの提供して頂く予定となっていました、変更はないですか。	xHTMLへの変換スタイルシートやxHTMLデータそのものの提供は想定しておりません。利用例については今回のVer.1.0の公開後1ヶ月程度でお示しできる予定ですが、利用例に含まれる変換スタイルシートについては、他のソフトウェアへ組み込んで使うことなどを想定したものではないので、業務上の使用に対しての動作保証はできません。

ご意見－④

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
【質問】 フォーマット変換(XSDスキーマ変換)が許可された場合、気象業務法に基づく業務の許可申請が必要となりますか？	気象庁の発表した内容をそのまま伝達するだけであれば予報業務許可は必要ありませんが、独自の予報と組み合わせたときなどは予報業務許可が必要です。今年度に運用指針としてどのような場合に許可が必要であるかの具体例をあげる予定です。

ご意見－⑤

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
気象庁防災情報XMLフォーマット(ドラフト)のフォーマット運用分類(InfoKind、InfoKindVersion)が、現行のどの電文形式データに対応するのかを示して頂けませんか。	具体的にはVer.1.0の策定後、今年度中に運用指針として示したいと考えています。

ご意見－⑥

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
気象庁防災情報XMLフォーマットの基本構造にある、1.2.2 管理部、1.2.3ヘッダ部について、それぞれの項目を共通の構造としているのであれば、詳細な定義が必要ではないでしょうか。また、1.2.4 内容部に書かれている各項目について、ある程度明確な記述が必要なのではないでしょうか。	詳細な定義等については、Ver.1.0の策定後、今年度中に特定の情報種別に応じた辞書を用意する予定です。

ご意見－⑦

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
気象庁防災情報XMLフォーマットのサンプルが多いのは、利用する側として準備が行い易い。今後も出来るだけ多くのサンプルを提供して頂きたい。	様々な運用を想定したものを提供していきたいと考えています。

ご意見⑧

・投稿者: (東京都 会社員)

ご意見	対応
ユーザーが十分なテスト／検証できるための「入電文の生成ツール」や「電文チェックツール」の提供をお願いします。 「要望の理由」 気象庁の新たな情報提供に際し、その受信者であるユーザーは設備開発整備に際して、十分なテスト／検証が必須であります。これまではユーザーの方でテスト／検証を行うために、自ら、気象庁電文に習った電文（コード文）を作成したり、簡易なツールを作成してテスト／検証を実施してきました。 今回のXML化に際し、これまでと同じように、ユーザー側が気象庁XML電文を模倣し、自ら電文を作成してテスト／検証を実施するのは不可能に近いと考えています。是非、お願いしたい事は、少しでもユーザーのテスト／検証作業の負担を軽くするためのテストツール「入電文の生成ツール」や「電文チェックツール」の提供をお願いします。 例えば、地震情報で言うと、GUIなどで必要な要素、「震源・震度・観測点」などを入力すれば、自動で気象庁XML電文を作成するようなツール、さらに言えば、JMAソケット通信でXML電文をテスト機器に配信できるツールです。 また、ユーザー側では想定される「イレギュラー」なケースも併せてテスト／検証する必要があります。「入電文の生成ツール」では生成できない電文があると思いますので、これについては、ユーザー自ら作成した電文に誤りが無いかをチェックするツール、誤りがあればそこを指摘するまたは、解説するツール「電文チェックツール」が必要だと思います。	電文試験については、内容面のチェックはできるかぎり多くのサンプル電文を用意するのでこれを利用していただきたいと考えています。 通信試験については全てのXML電文について22年度の配信を予定していますが、それに先立ちオンラインでの試験配信を行う予定です。

ご意見⑨

・投稿者: (東京都 会社員)

ご意見	対応
■要望 地震のID化について年月日時分秒までの「地震ID」をつけて頂きたい。（同一秒に2つの地震があった場合は、片方は＋1秒して頂くなどの対応をしていただきたい。） ■要望理由 気象庁のMS切替や東西EPOS切替で、IDが不一致にならないような仕様にしていただきたい。ユーザー側はIDのみを管理する簡略化したシステムとしたいと考えています。気象庁側の切替でIDが変わってしまうと、そうした処理が必要になってしまいます。	通常時は、東京か大阪のどちらかの中枢が生成した注警報や情報が部外に対して発表されるため、IDの齟齬は基本的には生じないようにいたします。 しかし、障害時や被災時等に対して、緊急地震速報や震度速報など人手を介さずに発表される情報はIDが異なることが情報の性格上避けられません。人手による加工が入るその他の注警報、情報については、迅速な情報発表に支障をきたさない限りにおいてID一致させるようにいたします。

ご意見－⑩

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
コメント.既存の緊急地震速報電文の扱いについて 以下の理由から、緊急地震速報そのものの普及を阻害すると考えられるため、従来の電文フォーマットでの継続提供を強く希望する。 【理由1】 緊急地震速報は、情報の性格上、極力遅滞なく、確実に伝達されるべきである今回のXMLフォーマットでは電文サイズが大きくなるので、伝送路上での遅延時間が増え、エラーの確立が高くなることが予測される。 【理由2】 電文サイズが大きくなることで、受信端末でデータを受信する為に必要となる性能(通信性能、メモリ容量など)が従来よりも高くなり、結果として受信端末機器の価格が上がる 【理由3】 既に提供済みの受信端末で受信が出来なくなると、エンドユーザは受信端末を買い替えては行けなくなり、経済的負担になる	理由1について、緊急地震速報の伝送に用いる回線については、JMAソケット手順によるバイナリ電文配信(gzip圧縮)のみを配信手段として考えています。そのため、サイズの大幅な増加とはつながらないと考えています。また伝送サイズと圧縮データの伸張にかかるコストは旧来と異なり、伸張にかかるコストは無視しうる程度に小さくなることから、伝送遅延については圧縮対応によりかなり相殺できると考えられます。 理由2、3について、一方で情報の高度化の要望も多く寄せられており、それらの情報高度化の要望を実現するためには現行のフォーマットでは対処できません。それらもあって、比較的柔軟に内容を変更できるXMLフォーマットを1つの解決法であると理解しています。

ご意見－⑪

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
防災情報インスタンスを構成するスキーマおよび辞書が追加・変更される場合に提供されるファイル(xsd)等は、端末メーカー等関係する事業者にもれなく配布されるか、インターネット等で事前に公開されるものとしていただきたい 【理由1】 再配信事業者のサーバシステムへの反映、受信端末への反映については、テストも含め、相当の期間が必要となるため	スキーマを変更する場合は、インターネット上も含めて周知し、移行期間を設けた上で実施します。

ご意見－⑫

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
気象庁防災情報XMLフォーマット(ドラフト)の中でXMLスキーマについては、管理・運用が記載されていますが、辞書についての管理・運用についてもXMLスキーマ同様に行う予定ですか。辞書の管理・運用方法ならびに利用者への配布方法など明確にして頂けないでしょうか。	スキーマは辞書から生成しているため、スキーマの運用・管理方法についても辞書と同様です。また、スキーマと同様にインターネット上でも配布します。

ご意見－⑬

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
現行の電文形式データと新しい気象庁防災情報XMLフォーマットとの対応が1対1になりますか。それとも電文形式データと気象庁防災情報XMLフォーマットの対応が複数になる場合もありますか。現行の電文形式データとの対応を明確にして頂けないでしょうか。	表1. 1に、現行電文のヘッダと新XMLの対応表を記載しています。

ご意見－⑭

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
■要望 現在、予報・週間予報電文等のコード化された部分はテロップコードのみですが、細分区域や風予報など、日本語のみで送られてくる情報についても全てコード化して送って頂きたい。	領域に関するコードは「1.3.6領域(都道府県、市町村、独自細分区域)表記」に記述しているとおりにしています。また、警報種別等につきましては、必要に応じてコードを作成しています。 コードを用いない要素につきましても、XMLを適切に処理することにより情報を正確に取得することが可能です。

ご意見－⑮

・投稿者：(会社員)

ご意見	対応
これらのXML形式の気象データは有償でしょうか？現在でも天気予報のXMLデータは取得できるらしいですが、月額10万円以上と聞いています。 http://www.jmbasc.or.jp/hp/online/n-online5.html また、いつごろから実証実験を開始する計画なのでしょうか？1月30日にドラフト版の公開がありましたので、本年度中には何とかなるような気はしているのですが。無償で提供されるようであれば、新しいビジネスや市場の開拓になるのではと考えております。	現存「府県天気予報」につきましては、月額55,200円と基本負担金13,200円の計、月額68,400円が必要ですが、これは配信に係る諸経費を利用者に負担していただいているものです。今後も引き続き利用者に負担していただくことになります。 配信時期については、全てのXML電文について22年度の配信を予定していますが、それに先立ち試験配信を予定しています。また、現行と異なる配信形態については、どのような配信形態があるかも含めて検討していきたいと考えています。

ご意見－⑯

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
■フォーマット辞書の「複数形s」について p.47に子要素 MeteorologicalInfo と MeteorologicalInfos があります。両方とも出現回数は * (0～無限大)となっており、複数形sの使い分けが分かりません。 また、親要素にもtype.MeteorologicalInfos と type.MeteorologicalInfo があります。予報・観測の「種別」と「内容」という区別ならば、Infoclass や Infotypeとした方が明確ですし、もし厳密に使い分けしていないのであれば、dataやmediaなどの複数形を用いる単語以外は単数形に統一した方が、間違いも防げると思います。 同様に「Warnings」「FeltNumbers」「informations」も確認した方が良いと思います。	使い分けとして、繰り返し出現する同一要素名をたばねる目的で、記号的に、“～s(複数形)”要素を利用しています。

ご意見－⑰

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
■フォーマット辞書の「略語」について p.75に子要素 VolcanoInformations、p.76に子要素 OtherInformations があります。 他方、InfoKind、ContactInfo、MeteorologicalInfos のように、“Information”の省略形として“Info”を用いた例があります。略語には Int(Intensityか Integerか)のように紛らわしいものもありますので、略語リストをルール化し、定められた語以外は省略しないとするのが望ましいと思います。	基本的には略語は行わないことで対応いたします。しかし電文の容量が大きくなることを避けるため一部のタグについては略語を用いることとし、例外として「1.3.3 要素、属性の命名規則」に掲載いたしました。

ご意見－⑱

・投稿者：(東京都 会社員)

ご意見	対応
■フォーマット辞書の「語尾の数字」について p.70に親要素 type.Tsunami と type.Tsunami2 があります。 Tsunamiを分類するための手段だと思いますが、意味が分からないため、XMLの構造化の観点からは望ましくないと考えます。例えば「TsunamiCode」のように意味のある命名をされた方が良いと思います。同様に「type.Intensity2」「type.Comment2」も要確認です。	ご指摘を踏まえ、Ver.1.0に反映いたしました。